様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １２ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｈ０１２１１

研究課題名（和文）「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化

研究課題名（英文）Developmental Research for the Construction of Confucian Art History: Structural Interpretation of East Asian cultural Area and Academic Resources Enlargement

研究代表者
水野　裕史（MIZUNO, Yuji）

筑波大学・芸術系・准教授

研究者番号：５０６１７０２４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,900,000円

研究成果の概要（和文）：本課題は、新たな学問領域として「儒教美術史」の提唱を目指す。そのため儒教美術の事例研究を統合し、東アジア全域を視野に入れ、成立地と波及地の様式的変容を探究する。
COVID-19および社会情勢により、成立地である中国大陸の調査を実現できなかったものの、日本や韓国、ベトナムにおける様式的変容について、多くの共通点を見出すことができた。また、多くの事例研究を集積し、学術図書や展覧会にて成果を公開し、研究の資源化を試みた。さらに東アジアに共通する儒教を背景とした美術研究の重要性について、国際会議で多くの支持を受け、各国の研究機関の合意を得て国際共同研究の可能性を示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の意義は、「儒教美術史」という新たな学問領域を提唱し、儒教美術の事例研究を統合することで、東アジア全域にわたる様式的変容を追究した点にある。これにより、東アジアにおける儒教の影響が美術にどのように反映され、変容してきたかを体系的に理解するための基盤を築いた。また、日本、台湾、韓国、ベトナムにおける共通点を見出したことは、地域間の比較研究の重要性を再確認させた。この研究は、儒教文化が東アジア美術に与えた影響をより深く理解するための重要なステップとなり、今後の美術史研究における新たな視点を提供するものである。

研究成果の概要（英文）：The objective of this project is to propose a new academic field, "Confucian Art History." To this end, we integrated case studies of Confucian art and explored the stylistic transformations in both its origins and areas of diffusion, considering the entire East Asian region. Although we were unable to conduct field research in mainland China due to COVID-19 and the social situation, we found many commonalities in the stylistic transformations in Japan, Korea, and Vietnam. Furthermore, we compiled numerous case studies and published our findings through academic books and exhibitions, aiming to resource our research. Additionally, the importance of studying art with a Confucian background, common to East Asia, received significant support at international conferences. We also secured agreements from research institutions in various countries, demonstrating the potential for international collaborative research.

研究分野：日本美術史

キーワード：儒教　孔子　聖廟　釈奠　帝鑑図　聖賢　道徳観　倫理観

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

東アジア文化圏の倫理観形成に大きな役割を果たしたのが､｢孝｣の思想を持つ儒教であった。親子や君臣関係といった儒教思想を表象した儒教美術は、漢字文化圏の東アジアに共通する美術文化である。興味深いことに、儒教に基づく帝王学を図解した『帝鑑図説』(中国：1572 年刊行)は、18 世紀フランスにて、エッチングで翻訳出版され、フランス革命にも影響を与えたことで知られる。このように儒教美術は、人々の倫理観に多大な影響を及ぼした国際的な視覚芸術と指摘できる。

これまでの儒教美術研究の嚆矢としては、翠川文子氏や杉原たく哉氏による先駆的な成果がある。「孔子像」や「聖賢図」といった特定の美術主題に焦点をあてたもので、儒教美術の事例研究として新知見を示している。多くは、作品研究として様式論に立脚した論考のため、儒教思想に基づく解釈が十分におこなわれてきたわけではない。また、縦軸としての歴史的展開、横軸としての地域的な広がりからの解釈も、今後の課題として検討の余地が残されたままであった。

研究代表者が所属する筑波大学日本美術史研究室では、2000 年から 2018 年 3 月まで、儒教美術をテーマに研究を進めてきた。研究の過程で、身分制度を表した「帝鑑図」と呼ばれる画題を、支配階級の倫理観形成に寄与した儒教美術の一つと位置づけた。ただし、徳川将軍家という人物を限定して検証したため、地域的な展開と鑑賞した大名たちの反応の解釈については、不十分なままであった。研究代表者の研究も含め、従来の儒教美術研究は、形象を解釈する事例研究に留まっており、思想史などの諸学と協働しての形象解釈を研究の核としていないため、東アジア儒教研究の統合的な研究が成熟してこなかったのである。

２．研究の目的

本課題は、東アジアに共通する倫理観の形成に、美術がどのように作用したのかを解明するものである。具体的には、儒教に由来する美術を対象に、その成立地(中国)と波及地(日本など)での様式的変容について、「時代・地域・国家統制」の三視点を中心に、その全体像を追究する。加えて、これまでの儒教に関する美術主題の事例研究の成果を発展的に統合し、本課題の成果を資源化することで、新たな「儒教美術史」という領域を構築する。

紀元前 6 世紀に成立した儒教は、周辺地域に波及していった。各地の孔子廟に祀られた美術は、人々に共通する視覚イメージを生み出し、やがて統一的な概念の成立へと作用した。そのため、人々の倫理観形成に寄与した所産として、儒教美術を素材に東アジア文化圏の構造を学術的に解釈できる。

３．研究の方法

本研究は、儒教美術を東アジア文化圏に共通する文化と捉え、その表象の成立と変容を分析することで、東アジアの文化構造を解明する。その具体的な方法として、以下の①から④の調査系統を設定し、東アジアにおける儒教文化、その礼拝空間に見られる「かたち」の同一性と地域的特性を比較する。そのため、形象解釈をめぐる幾つかの研究班を構成し、東アジア文化圏における儒教形象の研究モデル、統覚的な研究成果を創出することを企図している。研究班として、日本美術史領域、中国･韓国美術史領域、思想史領域、日本史領域の 4 部門を一組として構成する。その過程において、電子媒体によるアーカイブ化を進め、統合的な協議の場を設定し、研究の実質化の調整をはかる。加えて、儒教美術を専門とする海外研究者の協力を得て、国際的な研究拠点を作る。

調査系統①：　儒学者などの文献史料に記載されている儒教美術の主題について調査する。
調査系統②：　作品のデータ収集を実施するとともに、儒教美術の成立と展開の地域的・時代的特性と同一性を明らかにする。
調査系統③：　国内外の孔子廟・聖廟と連携し、収集データや解明事項などを分析する。
調査系統④：　儒教美術データベースを構築し、儒教美術の視点による東アジア文化圏の倫理観形成を解釈する。

４．研究成果

本課題は、新たな学問領域として「儒教美術史」の提唱を目指すことを目的とした。そのために、これまでの儒教に関する美術主題の事例研究の成果を発展的に統合し、儒教美術の成立地と波及地における様式的変容について、全体像を追究する。

COVID-19 および社会情勢の変化により、成立地である中国大陸の調査を実現できなかったものの、日本台湾、ベトナム、韓国における様式的変容について、多くの共通点を見出すことができた。また、事例研究を集積し、学術図書（『儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画』勉誠出版、2022 年）や展覧会（孔子をまつる―歴聖大儒像の世界、筑波大学附属図書館、2022 年 11 月 1 日-18 日／特集儒教の美術湯島聖堂由来の絵画・工芸を中心にして、東京国立博物館、2023 年 6 月 27 日-8 月 6 日）にて成果を公開し、研究の資源化を試みた。加えて、東アジアに共通する儒教を背景とした美術研究の重要性について、国際会議（徹底解剖！狩野山雪「歴聖大儒像」、筑波大学、2022 年 11 月 5 日／東亜儒教藝術研究學術工作坊、台湾・中央研究院、2023 年 3 月 18 日）で多くの支持を得て国際共同研究（台湾／中央研究院・台湾大学・台湾師範大学、ベトナム／ベトナム国家大学ハノイ校・漢喃研究院、韓国／成均館大学校）の可能性を示すことができた。

各個人研究の成果は、以下のとおりである。

研究代表者の水野裕史は、研究の総括および中世から近世における儒教美術の研究をおこなった。特に「孔子像」と「帝鑑図」を中心に作品調査をおこない、多くの未紹介作品を見出すことができた。一例を挙げれば、奈良・長谷寺所蔵の「孔子像」は、『豊山長谷寺拾遺』（元興寺文化財研究所編、総本山長谷寺文化財等保存調査委員会、1994 年）にモノクロ掲載されている作例だが、特に注目されていなかった。今回、長谷寺様のご厚意にて熟覧が叶い、室町時代に遡る重要な作例であることを確認した。この研究成果については、2024 年度以降に国際ジャーナルに投稿する予定である。他の作例に関する成果については、一部分であるが、2024 年 3 月に発行した『儒教美術研究』（第 1 号、筑波大学日本美術史研究室）にて公開し、残りの分については、順次、論文等にて公開する予定である。「帝鑑図」については、書籍『帝鑑図と帝鑑図説―日本における勧戒画の受容（仮）』（小助川元太・薬師寺君子・野田麻美・水野裕史編、勉誠社、2024 年 12 月予定）にて公開する（研究分担者の鷲頭桂氏、井川義次氏も寄稿予定）。

研究分担者の守屋正彦は、狩野派に関する研究をおこない、筑波大学本狩野探幽筆「野外奏楽、猿曳図」六曲屏風一双が孔子廟大成殿を指す「金声玉振殿」の画意を伝えるものとし、湯島聖堂伝来資料であるとの結論を得た。

研究分担者の鷲頭桂は、中世末から近世初期の障壁画、特に帝鑑図屏風と多聞山城障壁画について研究をおこなった。帝鑑図屏風については、九州国立博物館本を分析し、その成果を『国華』（掲載号未定、2024 年刊行予定）に発表する予定である。多聞山城障壁画については、現存しない「楊貴妃の間」の復元的考察と歴史的位置づけを検討するため、多聞山城跡発掘調査報告書、ルイス・ダ・アルメイダ書簡、『中務大輔家久公御上京日記』などの資料収集をおこなった。

研究分担者の沖松健次郎は、これまでまとまって調査されていなかった東京国立博物館所蔵の儒教絵画について、同館絵画特別調査のテーマとして国立博物館絵画分野担当者と本科研メンバーと共同して調査研究をおこない、2023 年 6 月 27 日-8 月 6 日開催の「特集　儒教の美術湯島聖堂由来の絵画・工芸を中心にして」にその成果の一端を活かした。

研究分担者の楢山満照は、コロナ禍の影響で中国国内の作品調査を実施することができなかったため、文献と既存の実作品を用いて漢から両晋時代頃までの儒教図像を整理する作業を進め、中国古代図像学の立場から、銅鏡の図像の重要性、特に儒教図像を考察していくことの意義について再考した。文献学、考古学、美術史学等の既成の枠を横断することの必要性を明確にし、実作例と資料の双方を含めた新出の出土資料を参照し、相互に研究成果を積極的に参照するならば、古代中国における「儒教美術」具体相を明らかにすることも可能になってきている状況を明らかにした。

研究分担者の塚本麿充は、孔子像の作者についての分類と分析を行い、図像の真正性に図像製作者の身分が密接にかかわっていることがわかった。この成果は『儒教美術研究』に論文として発表された。

研究分担者の勝木言一郎は、報恩経変相の図像について、敦煌莫高窟の壁画や、蔵経洞で発見された絵画を調査し、当時の敦煌の仏教界において「孝」がどのように受容され、そしてどのように表象されてきたかを研究した。その結果、敦煌においても南北朝時代後期にはすでに報恩経に見られる「孝」をテーマとした説話図がつくられたこと、また唐時代には報恩経変相がつくられ、敦煌独自に図像が展開していったことなどが明らかとなった。

研究分担者の尾川明穂は、建碑後早くに亡佚したとされる虞世南「孔子廟堂碑」（628 年頃）の孤拓本（三井記念美術館蔵）に注目し、碑石欠損・拓紙欠落箇所における原石書法の想定を行った。宋代の重刻である①城武本、また、唐代儒教石刻である②「開成石経」（835～837 年、『五経文字』序例など一部）と③「孔穎達碑」が原石書法の趣を強く残していることを指摘し、同じ字例により字体・書風の想定が可能であることを導いた。

研究分担者の林みちこは、近代日本の儒教・道徳教育を担った日本弘道会の創設者西村茂樹と洋画壇とのつながりを考察した。特にイギリスに学んだ洋画家石橋和訓との関係からは、洋学と儒教的価値観との共存を試みようとしていた西村の思想と活動が並行して浮かび上がり、近代の儒教人脈の実態の一部を明らかにすることができた。

研究分担者の山澤学は、徳川将軍家の霊廟建築である日光東照宮および京都養源院における障壁画・装飾彫刻の研究、および歴聖大儒像作成にかかる徳川将軍家周辺の絵画作成の研究をおこない、徳川将軍家における儒教（朱子学）の受容形態の一端を究明した。

研究分担者の井川義次は、これまでの蓄積にもとづいて、人間的「幸福」についての儒教情報が、いかに翻訳受容されたかについて一般的紹介書で公表している。ついで、明代の大政治家張居正

『帝鑑図説』のエッチング図解入りの仏訳書を、ほぼ全訳することができた。最後に老子ないし道教情報が、いかに初期の段階でヨーロッパに翻訳・紹介・受容されたかについて実証的に解明する成果を得た。

研究分担者の秋山学は、『源平盛衰記』「康頼造卒塔婆事」を中心に研究を行い、論文「頭には阿字の梵字」を記した。秋山は、仏教色濃い『源平盛衰記』にあって、儒教性を備えた人物像描写が異彩を放つ平重盛像と、同じく『盛衰記』「重盛，阿育王山に砂金を寄進する事」のくだりとが、重盛ゆかりの大阪住吉・法樂寺において、同寺所蔵の重盛像、および宋育王山より送られ同寺に所蔵される仏舎利の姿で切り結ぶことを明らかにした。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計40件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 守屋正彦	４．巻 1
２．論文標題 林羅山と江戸初期狩野派…絵画主題をめぐる羅山の関与について ―筑波大学本狩野探幽・尚信筆屏風絵を中心に―	５．発行年 2024年
３．雑誌名 儒教美術研究	６．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鷲頭桂	４．巻 1
２．論文標題 玄宗皇帝絵にみる勧戒性 ―長恨歌絵を中心に	５．発行年 2024年
３．雑誌名 儒教美術研究	６．最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 水野裕史	４．巻 1
２．論文標題 狩野山雪「歴聖大儒像」の前後:室町時代の孔子像と狩野常信「五聖賢図像賛」（尼崎市立歴史博物館）を例に	５．発行年 2024年
３．雑誌名 儒教美術研究	６．最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 塚本麿充	４．巻 1
２．論文標題 江戸時代・大名家における「孔子像」とその作者－「聖像」は誰がつくるのか－	５．発行年 2024年
３．雑誌名 儒教美術研究	６．最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 楢山満照	4．巻 1
2．論文標題 後漢鏡にみる儒教図像の解釈―中国美術史上におけるその意義	5．発行年 2024年
3．雑誌名 儒教美術研究	6．最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 勝木言一郎	4．巻 1
2．論文標題 大英博物館所蔵の報恩経変相Stein Painting 1 の図像に関する一考察	5．発行年 2024年
3．雑誌名 儒教美術研究	6．最初と最後の頁 53-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 尾川明穂	4．巻 1
2．論文標題 「孔子廟堂碑」に展開された虞世南書法の想定について ―重刻城武本と唐代儒教石刻に注目して―	5．発行年 2024年
3．雑誌名 儒教美術研究	6．最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 秋山学	4．巻 1
2．論文標題 「頭には阿字の梵字」 ―『源平盛衰記』における「康頼造卒塔婆事」が照射するもの―	5．発行年 2024年
3．雑誌名 儒教美術研究	6．最初と最後の頁 71-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 井川義次	４．巻 1
２．論文標題 フランス革命前夜ヨーロッパにおける『帝鑑図説』の受容について	５．発行年 2024年
３．雑誌名 儒教美術研究	６．最初と最後の頁 85-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 林みちこ	４．巻 1
２．論文標題 日本弘道会創設者西村茂樹と画家石橋和訓 ―イギリスに学んだ肖像画家と儒教の接点―	５．発行年 2024年
３．雑誌名 儒教美術研究	６．最初と最後の頁 97-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 守屋正彦	４．巻 -
２．論文標題 蘭渓道隆の甲斐配流と東光寺－甲斐源氏並びに武田氏の動向を解釈して	５．発行年 2024年
３．雑誌名 蘭渓道隆の甲斐配流と東光寺－甲斐源氏並びに武田氏の動向を解釈して」『甲斐の中世史』萩原三雄氏追悼論集刊行会　高志書院	６．最初と最後の頁 23-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 楢山満照	４．巻 -
２．論文標題 祖霊の安寧を願う画題－宏道院出土画像石にみる鉄剣鍛造の作業風景	５．発行年 2022年
３．雑誌名 下野玲子編『古代中国の神話と祥瑞―武氏祠画像石拓本』早稲田大学會津八一記念博物館	６．最初と最後の頁 89-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池田和彦	4．巻 -
2．論文標題 筑波大学附属図書館所蔵　狩野山雪筆　歴聖大儒像　六幅　保存修理報告	5．発行年 2023年
3．雑誌名 シンポジウム徹底解剖狩野山雪「歴聖大儒像」報告論文集	6．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山下善也	4．巻 -
2．論文標題 狩野山雪は歴聖大儒像でソロデビュー	5．発行年 2023年
3．雑誌名 シンポジウム徹底解剖狩野山雪「歴聖大儒像」報告論文集	6．最初と最後の頁 11－16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 林聖智	4．巻 -
2．論文標題 狩野山雪「歴聖大儒像」の源流―中国美術史から	5．発行年 2023年
3．雑誌名 シンポジウム徹底解剖狩野山雪「歴聖大儒像」報告論文集	6．最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 程永超	4．巻 -
2．論文標題 朝鮮通信使と歴聖大儒像	5．発行年 2023年
3．雑誌名 シンポジウム徹底解剖狩野山雪「歴聖大儒像」報告論文集	6．最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 武田祐樹	4．巻 -
2．論文標題 林家から見る十七世紀日本における釈奠	5．発行年 2023年
3．雑誌名 シンポジウム徹底解剖狩野山雪「歴聖大儒像」報告論文集	6．最初と最後の頁 43-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 秋山学	4．巻 82
2．論文標題 『詩経』の解釈書としての『春秋左氏伝』	5．発行年 2022年
3．雑誌名 文藝言語研究　文藝篇・言語篇	6．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 楢山満照	4．巻 -
2．論文標題 和鏡の文様構成―絵画的要素の遡源を中心に	5．発行年 2021年
3．雑誌名 三船温尚、内川隆志編『中世和鏡の基礎的研究 分析編2』國學院大學博物館・國學院大學学術資料センター	6．最初と最後の頁 71-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 楢山満照	4．巻 -
2．論文標題 墓のある都市景観―秦始皇帝陵の陵園と魂の巡遊	5．発行年 2022年
3．雑誌名 坂上桂子編『危機の時代からみた都市―歴史・美術・構想』水声社	6．最初と最後の頁 251-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井川義次	4．巻 133
2．論文標題 『中国の哲学者孔子』序文における道教、仏教情報の試訳	5．発行年 2021年
3．雑誌名 東方宗教	6．最初と最後の頁 42-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 水野裕史	4．巻 -
2．論文標題 序文	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画	6．最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 水野裕史	4．巻 -
2．論文標題 総説―勧戒画の系譜	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画	6．最初と最後の頁 8-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 守屋正彦	4．巻 -
2．論文標題 勧戒のシンボル―礼拝空間における孔子祭祀のあり方	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画	6．最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 楢山満照	4．巻 -
2．論文標題 漢代画像石にみる儒教的モチーフ―墓域という空間におけるその機能	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画	6．最初と最後の頁 35-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 勝木言一郎	4．巻 -
2．論文標題 大英博物館所蔵の報恩経変相Stein Painting 12の図像に関する一考察	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画	6．最初と最後の頁 62-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鷲頭桂	4．巻 -
2．論文標題 玄宗皇帝絵にみる勧戒性―長恨歌絵を中心に	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画	6．最初と最後の頁 95-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 水野裕史	4．巻 -
2．論文標題 コラム　中庸の美―欹器図	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画	6．最初と最後の頁 159-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 林麗江（尾川明穂訳）	4．巻 -
2．論文標題 万暦帝、張居正と『帝鑑図説』	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画	6．最初と最後の頁 174-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井川義次	4．巻 -
2．論文標題 フランス革命前夜ヨーロッパにおける『帝鑑図説』受容について	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画	6．最初と最後の頁 204-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 塚本麿充	4．巻 -
2．論文標題 宋代皇帝と勧戒の空間―「無逸図」と「山水図」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画	6．最初と最後の頁 237-251
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山澤学	4．巻 -
2．論文標題 「荘厳」する瑞獣―将軍家光の先祖祭祀における勧戒画	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画	6．最初と最後の頁 252-266
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 林みちこ	4．巻 -
2．論文標題 岡倉覚三（天心）の儒教美術観	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画	6．最初と最後の頁 288-300
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 楢山満照	4．巻 --
2．論文標題 Globalisation and the formation of East Asian art collections－the Freer Gallery of Art	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Madhu Bhalla ed. “CULTURE AS POWER: Buddhist Heritage and the Indo-Japanese Dialogue”	6．最初と最後の頁 159-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井川義次	4．巻 --
2．論文標題 西欧対孟子的理解	5．発行年 2021年
3．雑誌名 西学東漸	6．最初と最後の頁 303-319
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 水野裕史	4．巻 428
2．論文標題 雪村周継と臨済宗幻住派	5．発行年 2019年
3．雑誌名 美術研究	6．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 楢山満照	4．巻 237
2．論文標題 後漢鏡の図像解釈―中国美術史上における儒教図像の意義	5．発行年 2019年
3．雑誌名 アジア遊学　銅鏡から読み解く2～4世紀の東アジア	6．最初と最後の頁 45-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 秋山学	4．巻 40
2．論文標題 史の時代から個の時代へ―紀元前4世紀ギリシアが意味するもの―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 筑波大学地域研究	6．最初と最後の頁 35-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 水野裕史	4．巻 --
2．論文標題 コラム　馬麟 「道統五像」 と 「歴聖大儒像」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 孔子をまつる：歴聖大儒像の世界	6．最初と最後の頁 27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山澤学	4．巻 --
2．論文標題 寛永13年朝鮮通信使副使金世濂とその交流	5．発行年 2022年
3．雑誌名 孔子をまつる：歴聖大儒像の世界	6．最初と最後の頁 31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　1件／うち国際学会　9件）

1．発表者名 水野裕史
2．発表標題 狩野山雪「歴聖大儒像」の伝来と魅力
3．学会等名 筑波大学附属図書館特別展「孔子をまつる：歴聖大儒像の世界」講演会
4．発表年 2022年

1．発表者名 池田和彦
2．発表標題 保存修理報告 狩野山雪筆「歴聖大儒像」6 幅
3．学会等名 シンポジウム徹底解剖狩野山雪「歴聖大儒像」（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 山下善也
2．発表標題 狩野山雪は歴聖大儒像でソロデビュー
3．学会等名 シンポジウム徹底解剖狩野山雪「歴聖大儒像」（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 林聖智
2．発表標題 「歴聖大儒像」の機能と意味―中国美術史から
3．学会等名 シンポジウム徹底解剖狩野山雪「歴聖大儒像」（国際学会）
4．発表年 2022年

１．発表者名 武田祐樹
２．発表標題 林家資料から見る17世紀日本における釈奠
３．学会等名 シンポジウム徹底解剖狩野山雪「歴聖大儒像」（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 程永超
２．発表標題 朝鮮通信使と歴聖大儒像
３．学会等名 シンポジウム徹底解剖狩野山雪「歴聖大儒像」（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 塚本麿充
２．発表標題 江戸時代の大名家における「聖像」とその作者
３．学会等名 東亜儒教藝術研究學術工作坊（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 鷲頭桂
２．発表標題 日本近世の帝鑑図―狩野派と雲谷派
３．学会等名 東亜儒教藝術研究學術工作坊（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 水野裕史
２．発表標題 道統図としての「歴聖大儒像」
３．学会等名 東亜儒教藝術研究學術工作坊（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 楢山満照
２．発表標題 漢代銅鏡にみる故事人物図の多面的機能
３．学会等名 東亜儒教藝術研究學術工作坊（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 林 みちこ
２．発表標題 1910年日英博覧会と岡倉覚三（天心）『特別保護建造物及国宝帖』を中心に
３．学会等名 観月会講演会（2019.10.26茨城県天心記念五浦美術館）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 守屋 正彦
２．発表標題 儒教美術（総論）
３．学会等名 儒教美術第1回研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 井川 義次
２．発表標題 儒教理念とその西伝について
３．学会等名 儒教美術第1回研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 楢山 満照
２．発表標題 三本足のカラスはどこから来たかーシンボルの由来をたどる
３．学会等名 シンポジウム「サッカー×アート：日本サッカーのシンボルをめぐって」
４．発表年 2020年

〔図書〕　計2件

１．著者名 筑波大学附属図書館	４．発行年 2022年
２．出版社 筑波大学附属図書館	５．総ページ数 38
３．書名 孔子をまつる：歴聖大儒像の世界	

１．著者名 水野裕史	４．発行年 2022年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 312
３．書名 儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ウェブサイト儒教美術研究
https://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~confucianism/

展覧会
・孔子をまつる―歴聖大儒像の世界、筑波大学附属図書館、2022年11月1日-18日
https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2022/index.html
・特集　儒教の美術　湯島聖堂由来の絵画・工芸を中心にして、東京国立博物館、2023年6月27日-8月6日
https://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=2609

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	守屋　正彦 (MORIYA Masahiko) (90272187)	筑波大学・芸術系・名誉教授 (12102)	
研究分担者	鷲頭　桂 (WASHIZU Katsura) (90590448)	独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部博物館科学課・主任研究員 (87106)	
研究分担者	沖松　健次郎 (OKIMATSU Kenjiro) (30332133)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・課長 (82619)	
研究分担者	林　みちこ (HAYASHI Michiko) (40805181)	筑波大学・芸術系・准教授 (12102)	
研究分担者	楢山　満照 (NARAYAMA Mitsuteru) (30453997)	女子美術大学・芸術学部・准教授（移行） (32626)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	塚本　麿充 (TSUKAMOTO Maromitsu) (00416265)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	
研究分担者	勝木　言一郎 (KATSUKI Genichiro) (50249918)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・上席研究員 (82619)	
研究分担者	尾川　明穂 (OGAWA Akiho) (20630908)	筑波大学・芸術系・准教授 (12102)	
研究分担者	山澤　学 (YAMASAWA Manabu) (60361292)	筑波大学・人文社会系・准教授 (12102)	
研究分担者	井川　義次 (IGAWA Yoshitsugu) (50315454)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	
研究分担者	秋山　学 (AKIYAMA Manabu) (80231843)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	林　麗江 (LIN Li-Chiang)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	林　聖智 (LIN Sheng-chih)		
研究協力者	山下　善也 (YAMASHITA Yoshiya)		
研究協力者	池田　和彦 (IKEDA Kazuhiko)		
研究協力者	程　永超 (Cheng Yongchao) (80823103)		
研究協力者	武田　祐樹 (TAKEDA Yuki) (90842047)		
研究協力者	谷口　孝介 (TANIGUCHI Kousuke) (40272124)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計2件

国際研究集会 東亞儒教藝術研究學術工作坊	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 徹底解剖！狩野山雪「歴聖大儒像」	開催年 2022年～2022年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
台湾	中央研究院	台湾大学	台湾師範大学	
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校	漢喃研究院		
韓国	成均館大学校			